

指導者 湯野小教諭 佐藤 勲

1. 研究主題「個を認める研究」

—学習意欲を高めるために—

学習を進めるための前提として大切なのは、児童の学習意欲である。

しかるに、意欲をもたせ、積極的に学習に取り組ませるための具体的な方法については、いつも実践の場で問題にされながらも、いまだに適切な方法は見い出されていない。

本研究では、児童の個性と学力に応じて、意図的・計画的に、まんべんなく「個を認めるはたらきかけ」がなされていけば、その「認められた」ことが契機となって、どの児童も、意欲的・積極的に学習に取り組むようになるのではないかと考え、一斉指導における「個を認める」はたらきかけのあり方を追求する。

2. 研究主題の解決策

(1) 前提条件

① 一人一人の児童の性格と学力とを把握し、個を生かすために、下記の資料を活用する。

- Y-G性格検査 • 学力検査
- 知能検査 • 前学期の成績
- 事前テスト

② 授業の中で、児童の主體的な活動の時間をできるだけ多くとり、教師はその間個別指導に努める。

(2) 解決策

① 授業ごとに、あらかじめ3～4人の児童を決めておき、その子たちを授業の中で「認める」場を意図的・計画的に設定し、短時日のうちには、少なくとも1回は、どの児童も、「認める」ようにする。このことを継続して行なう。

3. 研究主題と本時とのかかわり

児童名	前学期評定	学力SS	知能SS	Y-G性格類型	所見
A	2	35	44	B'	• 気分の変化が著しい。感情的、きょうめんでない。 • 気が向くと本気でやるが、根気が続かずあきやすい。
B	3	56	48	AE	• 気が利かない。神経質で引込思案。 • 発言は少ないが、真剣に努力する。

C	3	44	37	C'	• 活発で、人と一緒にしゃべることが好き。 • 仕事は速いが、やや雑。
D	4	53	48	A''	• 活発で、仕事が速い。やや感情的。 • 反応が速く、積極的だが、早のみこみしやすい。

1. 単元名 作品の主題を（三人の旅人たち）

2. 単元の目標

- (1) 反復と対比による文章全体の構成をとらえながら主題を読み取り、感想を持つことができるようにする。
- (2) 言葉の係り受けなど、文の組み立てや語句の使い方を工夫して文が書けるようにする。
- (3) 言葉の係り方や照応の仕方、語句の役割について理解する。

3. 指導計画……………(総時間数7時間)

- (1) 全文を読んで感想を持ち、学習の計画を立てる。……………(2時間)
- (2) 情景を想像し、作品のおもしろさを味わい、主題にせまる。……………(4時間)
 - さばく駅の三人の生活について読み取る。……………(1) (本時)
 - 三人の旅について読み取る。……………(1)
 - 今の三人の生活を読み取り、感想を書く。……………(1)
 - 情景を味わって朗読し、学習のまとめをする。……………(1)
- (3) 言葉の学習をする。……………(1時間)

4. 本時の目標

第一段落を読み、さばくの情景を想像し、三人の生活の様子を読み取らせる。

- ① 大きなさばくの様子、小さな駅の様子がわかる。
- ② さばく駅の三人の仕事の内容や、三人もいたわけがわかる。
- ③ 三人が毎日の仕事に対して、どう考えていたかがわかる。
- ④ 「しんから幸せでなかった」わけがわかる。

5. 児童の実態……………略